

様式1 令和7年度 山梨県立高等支援学校桃花台学園学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	生徒に誇りと自信をもたせ、他者への思いやりや協調性を培うとともに、職業教育を通じて、意欲的に社会参加する力を養成する。
-----------	---

山梨県立高等支援学校桃花台学園校長 木村 則夫

本年度の重点目標	1 全ての生徒に目標をもたせ、自己実現及び社会的自立を促す指導と支援を行う。
	2 職業教育・キャリア教育の充実を目指すとともに、企業就労に向けた知識・技能を身につけさせ、よりよい就労へ導く。
	3 軽度知的障害生徒の特性や様々な家庭環境にある生徒の指導・支援に専門的かつ組織的な教育を追求する。
	4 高等特別支援学校の特色を生かし、地域に開かれた社会とつながる学校づくりを行うとともに、学校周知のための広報活動を推進する。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標		年度末評価(令和8年2月1日現在)		
		具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	・わかる授業を目指して、授業力の向上と研究活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が教育目標を共通理解し、その具現化を目指した教育活動の推進</li> <li>わかる授業を目指した授業改善の推進</li> <li>専門教科と他の教科とを関連させた職業教育の充実</li> <li>個別の教育支援計画・指導計画の立案と適切な評価</li> <li>自立活動の実践と個々の生徒の実態に応じた適切な学びの提供</li> <li>ICT利活用や教科指導の充実を目指した相互授業参観と研究活動の推進</li> <li>総合的な探究の時間と金融教育の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員個々人による目標設定</li> <li>授業観察の実施と授業改善</li> <li>教科会議の内容共有教育課程の検討</li> <li>個別の支援計画・年間指導計画等の作成</li> <li>研究授業の実施相互授業参観の実施ICT活用事例の蓄積ICT活用に関する研修会の開催</li> <li>研究授業等の実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職による教員の面談、授業観察を行い学校教育目標の共有と授業力の向上を図ることができた。</li> <li>自立活動と総合的な探究の時間を時間割の中に定め年間を通して計画的に実施し生徒の課題に向き合うことができた。総合的な探究の時間では学校外の関係者をアドバイザーとして成果発表会を行った。</li> <li>軽度知的障害者の金融経済教育について2年間通して研究をした。家庭科、職業科、社会科の研究授業を通して、卒業後の経済的自立のために必要な事項について教育課程を研究し見直し、実施した。</li> <li>来年度から実施予定の環境メンテナンスコースの「ペットメイク」について教室整備やベッド、ユニットバス等の施設の整備ができた。併せて、教員の技術習得のため外部専門家による研修をホテルで行った。</li> <li>農業生産コースで行う野菜の水耕栽培に関して、専用温室の整備を計画している。来年度着工する予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体となる授業づくりがさらに進み定着できるように各教員に対し働きかけていく。</li> <li>自立活動と総合的な探究の時間を週0.5ずつから1.0ずつに増やしていくことで、生徒個々の課題の改善と卒業後の自立と社会参加に必要な力を身につけさせる。</li> <li>環境メンテナンスの中でペットメイクの授業を行っている。</li> <li>農業生産コースでは専用温室の中で野菜の水耕栽培に取り組んでいく。</li> <li>生成AIの活用などICT活用の研修を実施した。普段の授業で活用する機会を設けていきたい。</li> <li>個別の指導計画や通信表のあり方について見直し、より合理的で分かりやすいものに変更していく。</li> </ul>
2	・生徒一人一人の特性や能力に応じた専門的な教育・支援を行い、生徒の実態に応じた企業就労や、職場定着に向けて取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部の人材を活用したり企業からの意見を取り入れながらの各コースの教育内容の充実</li> <li>一般就労の促進と就労後の職場定着に向けた計画的な取組</li> <li>福祉就労生徒への支援の充実</li> <li>進路開拓を目指して、企業等への周知及び連携の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を活用した専門的指導校外実習の実施</li> <li>能力や適性に応じた進路指導の促進就労に係る関係者会議の開催</li> <li>企業対象説明会等の開催進路先の新規開拓</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業対象学校説明会では、実習先や就職先の開拓に加えて障害者雇用の理解啓発を進めることができた。</li> <li>専門コースの授業は、外部専門家を計画的に活用し実践的な教育を実施した。</li> <li>現場実習を実施して様々な職種を体験するなど就労に向けての実際的な体験を積ませることができた。</li> <li>県内の中小企業団体と連携して仕事の体験会を行い様々な職種を体験させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業団体による仕事の体験会は生徒が多くの仕事を知ることができ、職業を選択するうえで大変役に立った。来年度以降も続けていきたい。</li> <li>専門コースの授業内容については、社会や産業構造の変化に合わせて内容を見直ししていく必要がある。</li> </ul>
3	・外部専門家を活用し、生徒及び保護者に対する指導・支援を専門的かつ組織的に実施する。 ・生徒の実態や諸課題を踏まえたキャリア教育、安全教育、道徳教育、性教育、食育を充実させ、教育課程全体を通して取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理士を活用した、生徒・保護者・教職員への相談支援活動の充実</li> <li>支援会議における生徒や環境に係る課題整理と指導方針の共有</li> <li>各教科等横断的なカリキュラムマネジメントの推進による教育内容の充実</li> <li>いじめや問題行動の未然防止に向けた計画的・組織的な対応</li> <li>安全教育の充実と危機管理マニュアルの周知・共有</li> <li>人権を尊重した丁寧できめ細やかな指導の徹底</li> <li>生徒の実態を適切に把握し、特性等に応じた合理的配慮の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理士による相談支援事業の実施校内支援会議の開催</li> <li>シラバスの見直しと他教科との情報共有</li> <li>「生徒心得」「いじめ基本方針」の共有と内容の検討危機管理マニュアルの見直しと交通安全、災害教育等の実施</li> <li>生徒情報の共有校内支援会議の開催関係者会議の開催自立活動の指導計画の作成と活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理士2名による定期的な相談体制を整えた。心理的不安定な生徒等を対象にした面談、グループによるソーシャルスキルトレーニングを実施した。</li> <li>JAF職員等を講師として自転車交通安全教室を定期的に行い生徒の安全意識を高めることができた。</li> <li>生徒の自立心を高めるため、運転免許取得とアルバイトに関する校則を一部改正した。</li> <li>生徒間のいじめ等のトラブルの対応について、実際的な性の指導やSNSの正しい使用方法について等の授業を定期的、計画的に行なった。</li> <li>定期的または、必要に応じて関係者会議を開催し、課題の確認や情報交換を行い連携して指導を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理士相談については、生徒だけでなく保護者や担任に対しても助言をもらい生徒指導に効果を上げることができた。</li> <li>定期的に交通安全教室を開き、生徒の安全意識を高めることで、自転車による交通事故を0にすることができた。</li> <li>SNSを使っただけの問題行動が目立つ。性の指導やスマートフォン内容の使用法についての学習等の内容をさらに工夫していく必要がある。</li> <li>家庭環境に問題を抱える生徒や問題行動が重なる生徒に関しては、児童相談所や市町村 警察等との連携を進めながら対応する。</li> </ul>
4	・一般就労率の向上、志願生徒数の増加を図るため、広報活動を計画的に実施する。 ・保護者・地域・関係機関等に理解を促進するとともに高等特別支援学校としての本校について、地域に開かれた学校づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教育活動の理解促進を目指し、学校ホームページの効果的活用</li> <li>諸機関が発行する広報誌等を活用し、本校の教育活動を積極的に発信</li> <li>外部参加の行事については、広く広告チラシを配付するなど積極的な働きかけ</li> <li>地域における実習等の教育活動の機会を多く設定し、本校理解と相互連携を促進</li> <li>マーケット等の開催を通して地域住民との関係性を深め、開かれた学校づくりの推進</li> <li>学校間交流をととして、同年代生徒との交流の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの充実と学校情報の即時更新各誌への掲載促進広報活動の計画立案</li> <li>地域交流や地域を巻き込んだ実習の実施桃花ダイスキマーケット・収穫祭の効果的計画と実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページのブログの発信や、学校情報誌「東雲の空」を定期的に発行することにより、保護者や地域等に情報を広く発信した。また、報道機関等にも多くの情報を提供した。</li> <li>地域交流として、石和温泉駅や公民館、公園等の清掃作業、学校間交流として石和東小学校や笛吹高等学校との交流を実施することができた。特に笛吹高校とは、本校の食品加工コースと笛吹高校の食品化学科、環境メンテナンスコースと同校福祉コースが授業交流を行った。</li> <li>笛吹市の避難所に指定された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報誌「東雲の空」を定期的に発行することで学校行事、教育内容、指導方針等を広く発信し多くの人に知ってもらえた。</li> <li>笛吹高校との授業交流を通して互いの個性と特技を知り合うことができた。来年度は、今年度実施した内容に加え、本校の農業生産コースと笛吹高校の果樹園芸課との授業交流ができるように調整していく。</li> <li>防災訓練を地域と合同で行うなど地域と連携した取り組みを行っている。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日(令和8年2月17日)	
意見・要望等	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融教育の推進、公開研究授業、シンポジウムを実施したことは高く評価できる。日本の知的障害の中等教育における重要な提言であると考えられる。学会での発表も考えてほしい。</li> <li>「自立活動」の初年度の評価を明らかにすることが必要である。来年度の展開のためしっかりと反省する必要がある。</li> <li>総合的な探究の時間については、とても難しい授業である。単なる調べ学習に終わらないように、各生徒の実態に合った課題設定や資料の収集についての支援など、支援者が考えなければならないことは多い。</li> <li>ペットメイクの環境が整ったのは大変喜ばしいこと。進路先にホテル等が増えてくるとよい。</li> <li>ペットメイクと水耕栽培の施設整備、AIの活用などに積極的に取り組み、生徒に寄り添った授業を行っている。</li> <li>管理職による教職員の面談や授業観察などをしっかり行い、授業力の改善に繋げている。</li> <li>軽度知的障害の「自立活動」は他の支援学校と違うと考えられる。内容を公開してもらいたい。</li> <li>自立活動と総合的な学習の時間を時間割に設けたことは、生徒個々の課題改善を図ることに効果的で、自立に向けてとても良い影響をあたえることができる。</li> <li>桃花台が行っている公開授業、講演会、シンポジウム等は、外部関係者にも大きな学びを与えている。大変興味深い取り組みである。</li> <li>様々な点で1年前にはなかったことが成果として現れている。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルバイト規程と運転免許取得規程の見直し自転車安全講習会の実施等生徒の実態と時代の変化に合わせた指導方針の転換は高く評価できる。今後はスマートフォンを授業で使用する事によるデジタルリテラシーや権利擁護に関する指導の充実が課題となる。</li> <li>「企業就労の実現」の次には「生活できる収入の確保」が課題である。卒業生の追跡調査により、生徒たちが、自身のキャリアやライフステージごとの生活の実態がイメージできるようにしていくとよい。</li> <li>軽度知的障害の教育に対する職員の専門性をさらに高めていってほしい。</li> <li>中小企業団体と交流を深め、体験会等を実施しながら常に課題改善を行っている。生徒は多くの職業を体験して、職業選択の参考になっている。</li> <li>企業人として、障害のある生徒たちが、自立してより良い生活をおくれるベースとなる職場を作れるよう努力していきたい。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理士、精神科医、企業など様々な専門家を活用し大変有効な実践を行っている。SSTについては、教員が方法を学習して実践できるとよい。</li> <li>外部機関との連携は効果的であり必須のことである。やりっぱなしで終わらず十分な検証が必要である。</li> <li>今年度の交通事故の件数ゼロについては、交通安全教室の実施効果が出ていると考えられる。</li> <li>心理士相談は、保護者や職員も多く利用していて幅広く役割を果たしている。</li> <li>SNSトラブルに対しても計画的に対応している。</li> <li>生徒目線で指導できる外部専門家を選定できるとよい。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞に取り上げられることが多かった。また、ブログの更新も高頻度であった。ブログの文章について、漢字が多かったり画面が小さいことが気になるポイントである。桃花台への進学に関心のある中学生が見て、すぐに分かるような工夫がもう少し必要である。</li> <li>開校してから10年間で桃花台学園の立ち位置がしっかりしてきた。これからも、ブレることなく実践を積み上げて、さらに発展していくことを期待したい。</li> <li>積極的な広報活動の実践は評価できる。これからも新聞等への発信やホームページへの掲載など更に力を入れてほしい。</li> <li>素晴らしい広報活動だったと思う。</li> <li>地域に開かれた学校という点は非常に評価できる。</li> <li>笛吹高校との交流は互いの個性と特技を分かり合うことで互いを高めあえた。今後も続けていって欲しい。</li> </ul>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。